

事例 11 教員研修(小・中・高校 3)

【多摩森林科学園年報 38 号:P37-38】

教員研修

「森林教育のための教員研修」(第 3 回)開催報告

2015 年 8 月 7 日(金)実施

多摩森林科学園における学校教育への支援として、未来を担う子ども達への森林教育の推進に貢献することを目的に、東京都産業労働局森林課および東京都高等学校森林・林業教育研究協議会と連携して、学校教員向けの研修会を実施しています。3回目となる本年は、8 月 7 日(金)に、小学校、中学校、高等学校の多様な分野の先生 19 名の参加を得て実施しました(小学校 8 名、中学校 8 名、高校 3 名)(写真 1)。

今年度は、東京都が推進している「木育」を取り入れた内容として、研修 1 では、さまざまな木とその木材の利用を紹介したフィールド展示「森のポスト」を使った樹木観察(写真 2)、研修 2 では、木材の利用について学ぶ木材の消費量の学習と、丸太きり体験(写真 3)、木の大きさの測定実習(写真 4)を行いました(表-1)。学校教育を想定して、木材や樹木を多様な視点から体感的に学ぶ活動や、グループワークを取り入れています。

参加者からのアンケートの結果、参加者は必ずしも自然体験活動などを担当している訳ではないものの、参加した教員全員が「森林や林業に関することを授業で取り上げたいと思う」と回答されており、意欲の高さを感じました。また研修会の感想(5 段階評価)では、全体の感想への平均評価が 4.7 と非常に高く、研修会は大変好評でした。印象に残った内容では、「森のポスト」(6 名)が最も多く挙げられ、実物を見ながら体験することへの評価が高かったといえます。研修内容について、9 割の教員が「授業で活用する」と回答され、HR や休み時間などで「生徒達に伝える」とあわせて全員が教育活動に活用する意欲を示しており、研修内容の普及効果の高さが伺えました。また次回以降の研修会へは「是非参加したい」と「他の先生にも参加を勧めたい」の回答が、それぞれ 7 割以上となりました。

感想として、「種類の違う木材を実際にふれ、葉の違いも比べてみたいと思いました」、「体験から学ぶ」ということを本日、自分で改めて“楽しい”と思いました」、「ここで過ごした時間の質は、日常の時間とは違うようです。人よりも長い時間を生きる樹木……(中略)……山の匂い、森の音、風や鳥の声、貴重な時間を過ごすことができました」などが寄せられました。ただし、研修会への参加は職務扱い(出張、研修)が 6 割に留まっていました。また、参加費を自己負担する人は全体の 6 割を占めており、次年度に向けて研修の実施方法を工夫する必要があるようです。



教員研修会の様子

事例 11

【多摩森林科学園年報 38 号:P37-38】

表-1 「森林教育のための教員研修」プログラム

時間	内 容
10:00	開講式
10:30	講義 「森林と木を考える」
11:00	研修① 屋外観察:「森のポスト」を活用した樹木観察
13:45	研修② 森林をどのくらい使っているのだろう？ -樹木調査と丸太きり体験- *研修①②は, 班別に入替制
15:15	閉講式



「森のポスト」を活用した樹木観察



丸太きり体験



測定実習

(井上真理子・大石康彦)